

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



石川 健司 水道部門（下水道計画） 勤務先：日本上下水道設計株式会社

TEL (011)231-0948 FAX (011)231-0957 E-mail : kenji_ishikawa@njs.co.jp

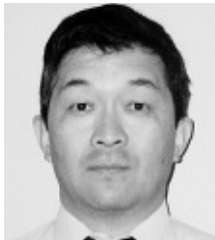
大学を卒業して現会社に入社して10年が経過しておりました。この業界ではまだまだ若手の34歳です。技術士（水道部門）は、札幌に転勤してきた平成12年度に取得しましたが、技術屋としてのスタートラインにやっと立ったといったところでしょうか。

生まれは十勝の上士幌町という田舎町で、小さいころは家の前が牧草地だったため毎日牛を見ることができました。そんな十勝が大好きで、技術士を取得してからは、特に生まれ育った田舎へ恩返しができるような仕事をしたいと考えるようになってきました。

私の専門分野である下水道との出会いは、大学受験で東京に行った時に、当時東京の大学へ進学していた兄に連れられて新宿の高層ビルの最上階にある展望台へ行き、そこのトイレで用をたした時に感じた不思議な気持ちがきっかけでした。そのため大学では給排水・衛生設備を学び、さらにその先について興味があり下水道の仕事を選んだように思えます。現在は、そのもっと先にある土（汚泥）に興味があります。休日には家の前にある小さな畑に花を植え野菜を育てて、土いじりを楽しんでいます。この先、どのようなものに興味を持つことができるか、何につながっていくか自分でも楽しみです。



次号は、奥田 卓さん（水道部門）



大原 治 建設（道路）／農業（農業土木）部門 勤務先：札幌土木現業所

私は道職員として約27年間公共事業の執行に携わって来ました。その経験からの意見を述べさせていただきます。先ず、これからの社会資本の整備についてですが、私事1976年に入社し70年代の高度成長期、オイルショックを経て80年の絶好期（バブル）時代に「仕事（公共事業）を作らなければ職場がなくなる」とまで言われ、住民との軋轢とその懐柔策に明け暮れ、行政の下で小判鮫の如く過ごしてきた自分であり、当時を思えば、昨今の「ミティゲーション」や「ワークショップ」といった事業の整備手法を取り入れていたら異端児扱いされたに違いない時代でした。過去の土木行政を鑑みると補助事業（補助金）に注目を浴び、維持・管理が軽視されており、数ある施設を一元管理し長期的な視点で保全業務を実行できるセクションが無かったのが現状ではないでしょうか。昨年の大雨災害に伴う事故も道路管理体制の盲点をつかれた状態であると思います。また、技術士の試験部門において一時期「維持・管理」部門が新設されるのではという話があったかと記憶しております。

今後、高度成長期のリバンド時代（既存施設の質の向上）を迎えて、土木行政の端くれを担う自分にとって①環境保全②循環型社会の創世（リサイクル）③高齢化対策（団塊時代人のため）のインフラ整備の一端を担えればと思っています。



次号は、山根正裕さん（建設／総合技術監理部門）



梶 光貴 水道（下水道）／総合技術監理部門 勤務先：釧路市役所

TEL (0154)53-3374 FAX (0154)53-3373

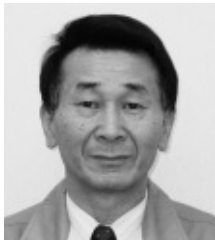
E-mail : ku 5722@city.kushiro.hokkaido.jp

1982年（昭和57年）市役所に採用され道路、下水道、都市開発、港湾と渡り歩いてきました。港湾部に配属となってからは毎年迎える会計検査を今年も7月に終え、ようやくひと段落したので、東北に住む大学時代の友人と温泉ツアーを企画中の9月26日に十勝沖地震が発生しました。地震災害は経験問題のテーマにしたことから今でも思い出深いものがあるのですが、10年ぶりの災害復旧では初期対応から始まるそれぞれの段階に応じたマニュアルの重要性を再認識することができました。あとはやはり体力勝負ですね（笑）

近年、北海道でも札幌近郊を除いて人口の減少が問題となっていますが、これからできることとして、地元技術系学校・学生への支援→技術力の向上→地元就職率のup→有資格者の増加→他都市へのアピール→人口増加→地域の活性化……のような流れを思い描いています。これからの若い人は単なる学問だけではなく、早い時期に設計の考え方から現場の施工管理までを含めた広範囲で具体的な経験を得るべきです。これによってより以上に興味・意欲を持って取り組んでいけるはずです。そうして多くの高度な技術者や有資格者を育てる街としてアピールできるようなシステムを構築することにより、一人でも多くの方がこの街を訪れてくれることになればこんなうれしいことはないのですが、まだまだ夢の段階です。はたしてこれからP-D-C-AサイクルのP若しくはDの段階にまで至るのでしょうか？



次号は、真田慎一さん（建設部門）



岸 明仁 機械部門（機械設備） 勤務先：栗林機工株式会社

TEL (0143)44-6001 FAX (0143)44-6417 E-mail : akihito_kishi@kikounet.co.jp

1950年（昭和25年）に、山形県最上町で生まれました。昭和43年に室蘭にきて以来、早、30有余年たちました。その間、建設業の機械関係に関わり、主として製鐵プラントの機械設備計画、設計業務をおこなってきました。業務がら、土木、建築、電気関係の技術者との関わりも多く、たくさんの方の事を学ばせていただき、平成3年度に機械部門として技術士の仲間入りをいたしました。ここ数年は、「海」に縁がありまして、石炭揚運搬設備、輸入チップ受入設備等の計画、設計、施工業務に携わることがたがた、ISO 9001、労働安全衛生マネジメントの指導等に関わり、本人曰く、自分は何屋なんだろう？ と思う毎日です。つい最近、そのことで自分なりに1つの結論を見出しました。その結論とは、最近室蘭としてPRしている“焼き鳥”や、“おでん”についている「串」です。「ネタ」は、バラバラですとあまり風味は感じられなく、好みに応じて、串で通し、連結して、初めて、特有の味がかもし出されております。

「串」は、固有の味を組み合わせ、所要の機能を持たせる役割を持つのではないかということです。このことで本人は、妙に納得している次第で、いわばシステムを作り上げる技術が私の特徴かな？ と。とりとめのないことを書きましたが、今後ともよろしく願いいたします。



次号は、三浦展義さん（機械部門）

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



坂上 琢也 建設部門（道路） 勤務先：北見設計測量株式会社

TEL (0157)23-2208 FAX (0157)23-5906

私は1984年（昭和59年）に北見設計測量株式会社に入社しました。以来道路設計を中心としながらも、地方の測量会社にふさわしく多種多様な設計業務に広く浅く携わってまいりました。

平成14年。試験制度変更前のラストチャンスである事と、前年度にRCCMに合格した勢いで、技術士第二次試験を受験し、翌3月に合格の吉報を受け取る事ができました。思いもよらなかったのは私だけではないようで、周辺では春の珍事と囁かれたものです。

こんな私が合格出来たのは、地域の先輩技術士を中心とした企業、職種を超えた有志一同による勉強会に参加させて頂いたおかげだと考えています。

昨今、地方の業務に都市部の大手コンサルタント会社が参入する傾向が顕著に見受けられます。それに対し、地元の中小コンサルタント会社は、生き残りをかけ技術力の向上が課題となっております。これには、前述の技術士勉強会で実践された、産官学の枠組みを越えた有機的な組織体というのは極めて有効であると考えます。また、我々技術士は、その中心的役割を担う責務があると痛感いたします。

さて、まだまだ未熟な技術者である私は、なんとか海まで出て来てブカブカ浮いているところ。このまま泳ぎ続ければ、遠くに見える大陸にたどり着くのだろうけれど、50mも泳げば息切れする私にそんな事は可能だろうか!? でも、ここはもう、じたばたしないで、ゆっくり地道に自己研鑽しながら泳いでいくなさそうですね。流されて違う島にたどり着くのもまた一興ですし。



次号は、八木敏雄さん（農業部門）



鳴海日出人 水産部門（水産土木） 勤務先：日本データサービス株式会社

TEL (011)780-1115 FAX (011)780-1125 E-mail: h-narumi@ndsinc.co.jp

1. 自己紹介：1959年北海道恵庭市に生まれ、現在江別市に在住しております。私
が子供の頃に父が土木会社を経営しておりましたので、その大変さを目の当たりにし、
土木関係の仕事だけはやめようと考え、学校も化学を選択し入学しました。入社当初
は、環境アセスメント関連の調査や水質・底質・土壌等様々な分析を行ってきました。
入社10年目頃から、海洋の調査・研究がメインとなりました。それから必要に迫られて生物、物理、土木
に関する技術を独学で勉強しました。特に海洋の生物については興味を持ち、潜水士の資格を取得して日
本の第一線級の潜水技術者と1年の内半年以上、寝食をともにして北海道周辺の海を調査して回りました。
このとき、「磯焼け」の現状を知り、お世話になっている漁師さんや海に恩返しができないものか……と考
えるようになり、豊かな海の原点ともいえる「藻場づくり」をライフワークとして研究に取りかかるよう
になりました。私が取得した資格をみると、博士、技術士など水産や土木に関するものが大半を占め、学
生の頃とは大転換することとなりました。**2. 今後技術士として……**：技術者としての転機は、様々な人
との出会いにあり、現在も私の財産となっています。昨今「産学官の連携」と言う言葉を良く耳にしますが、
現在、はこだて未来大学の長野教授を中心に数名の技術士が連携し「水産物のトレーサビリティシス
テムの開発」に挑戦し、平成16年に特許出願となるに至りました。今後も会社の枠を越えた、産学官の連
携による技術開発を積極的に進めていき、自身の技術の研鑽に努めていきたい。とりとめのない文章とな
りご容赦願う！



次号は、豊谷勝雄さん（応用理学部門）



秀島 好昭 農業部門（農業土木） 勤務先：(独)北海道開発土木研究所

TEL (011)841-5590 E-mail: Y.Hideshima@ceri.go.jp

バイオマス・ニッポン戦略にのっとり、農業部門においては、所謂「静脈系の研究」が盛んに行われています。北海道では毎朝、新鮮な牛乳を飲めますし、安心・安全な食材も手に入れることができます。このような生産地から消費者への「動脈系」供給システムを維持するためには、生産過程で産出する廃棄物（未利用資源）を適切に循環利用する等が必要とのことです。私は職場で実質 2001 年（平成 13 年度）から始まった、乳牛ふん尿からエネルギーとして燃焼利用できるバイオガスや処理過程でできる肥料成分に富んだ消化液の利用の研究に携わってきました。また、2003 年（平成 15 年）からは、このバイオガス中のメタンから水素エネルギーを生産し、その貯蔵や燃料電池により電気エネルギー等を供給する実証研究にも携わっています。従来は、基盤づくりのエンジニアとして、農業用ダムや用水路の建設技術の開発や水利用のシステムなどを学んできましたが、今や化学・理学分野の技術学習も必要となり、「モル」や「ジュール」とか過去に忘却した「単位」に悩まされています。

一方、初老技術者の新規分野へのチャレンジは、常に熱いものを与えるもので、「遅れず」、「でしゃばらず」チーム一丸となって前進と祈願しています。



次号は、伊東佳彦さん（応用理学部門）



宮田 恒夫 建設部門（土質及び基礎） 勤務先：土質工学サービス株式会社

TEL (0138)22-0275 E-mail: ses_tm@ms7.ncv.ne.jp

【地盤の医師としての 33 年】

社会に出て早33年を経過しようとする技術者です。勤務地は、東京、福岡、仙台、札幌、函館と全国を渡り歩きました。各地で従事した主な病気(仕事)は、以下のとおりです。東京、福岡、仙台では総合病院的、札幌、函館では町医者的に仕事しています。

- ・東京：沖積谷地の埋立により、地層中に発生する過剰間隙水圧の測定 → 沈下管理
排砂管からの吹き上げによる埋立土層形成時の間隙水圧、土圧測定 → 土層形成過程の管理
 - ・福岡：砂州地域での塩水・淡水境界の現位置調査、調査機器の作成 → 海岸淡水層の保全
山岳道路切土による地下水位低下が、山麓周辺井戸へ及ぼす影響 → 水文水理解析
 - ・仙台：ミニコンピューターを利用した各種地盤解析・地下水解析 → 有限要素法による解析
 - ・札幌：地盤調査、軟弱地盤解析、地盤挙動解析、浸透流解析
 - ・函館：軟弱地盤解析、浸透流解析、パソコンを利用した各種地盤のシミュレーション計算
- 新人の頃は、土および地盤に関する基本的な調査、測定、考え方を学びました。その後は、土と地下水に関する解析業務が主体となりました。現在は、函館にて相変わらず解析業務を行っています。

函館に住みつき道南技術士会に入会させて頂き、色々な研修会、現場視察等に参加させて頂きました。自分の専門以外の知識に遭遇し、楽しく胸躍らせられ自己啓発に役立たせて頂いております。



次号は、辻 弘之さん（応用理学部門）